

# 日本医師会認定産業医単位対象プログラム

第1日目:2021年11月20日(土)

1: 13:30-14:30 <専門1単位>

講演: 「コロナ禍を乗り切るために『連携スキル』を磨きませんか」

講師: 神山 昭男 ((公社)日本精神神経科診療所協会)

座長: 矢内 美雪 (キヤノン株式会社)

ねらい: 産業医による職場内外の関係者との連携の意義について、行政の指針をはじめとして多くの支持が得られている。コロナ禍を乗り切るうえでも連携の役割は大きい。しかし、実際に現場では多くの難点を抱えており、実践面では高いハードルがあると言わざるを得ない。そこで、効果的な連携に役立つ「連携スキル」について最近の研究成果を概説する。

2: 14:40-16:40 <専門2単位>

メインシンポジウム1: 「コロナ禍における労働現場の問題点とその解決をめぐる」

■ 基調講演: 「新型コロナ労務問題 Q&A」の取り組みからわかってきたこと

講師: 井上洋一(愛三西尾法律事務所)

■ シンポジウム;

① 産業医の立場から 森口次郎 (京都工場保健会)

② 人事の立場から 宮谷孝一 (インテル(株))

③ 主治医の立場から 高尾哲也 (水戸メンタルクリニック)

指定発言 三柴丈典 (近畿大学)

総合討論: 5人の先生による

座長: 三柴 丈典 (近畿大学)

座長: 田中 克俊 (北里大学)

ねらい: 期化するコロナ禍の中で、労働現場では感染防止対策の徹底化と労働の継続との両立を図るべく様々な取り組みが続けられている。そこで、この過程で生じた問題点と解決をめぐる、多角的な視点から検討を加えていく

3. 16:50-18:50 <専門2単位>

メインシンポジウム 2: 「コロナ禍から職場を守り抜くための有効な方略とは~メンタルヘルス対策の視点から~」

■ 基調講演: 「感染症専門医からみた職場における新型コロナ対策の留意点」

講師: 濱田 篤郎(東京医科大学)

■ シンポジウム;

① 田原 弘巳 (キヤノン(株))

② 矢野 嘉行 (中外製薬(株))

③ 荒木 信威 (日鉄テクノロジー(株))

指定発言

高倉 俊二 (厚生労働省安全衛生部労働衛生課長)

総合討論: 5人の先生による

座長: 神山 昭男 ((公社)日本精神神経科診療所協会)

座長:奥山 真司 (トヨタ自動車株式会社)

ねらい: 長期化するコロナ禍の中で、職場では従業員の健康を守り、かつ、持続的な業務遂行を実現するために必要な施策を打ち立てながら、職場組織を守り切るための努力が続けられている。そこで、この実践的テーマに関わってきた感染症対策、人事労務部門、労働衛生行政の専門家にこれまでの振り返りをしていただき、特にメンタルヘルス対策の視点から有効な方略について検討を加えていくことをめざしたい。

第2日目:2021年11月21日(日)

4. 09:00-11:00 <専門2単位>

シンポジウム:「コロナ禍における働き方の変化と治療就労両立支援の課題」

- ① 江口 尚 (産業医科大学)
- ② 千葉 千尋 (沖縄産業保健総合支援センター)
- ③ 宮沢 佳子 (佳子社会保険労務士事務所)
- ④ 柴岡 三智 (東京労災病院)

座長:小山 文彦 (東邦大学)@

ねらい: 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、働き方とコミュニケーション様式等が変化し、両立支援上の課題も少なくない。本シンポジウムでは、多職種の視点から現状報告と問題提起をいただき、議論したい。

5. 11:10-12:10 <更新1単位>

教育講演: 「新型コロナ時代の労務管理」

講師: 中山 篤 (中山労務安全衛生管理事務所)

座長: 高野 知樹 ((公社)日本精神神経科診療所協会)

ねらい: 新型コロナウイルス感染症対策で導入が急速に早まったテレワークを始め、働き方が大きく変化した。テレワークなど新たな働き方における作業環境管理、労働時間管理を含む作業管理、などについて中山篤先生(労働衛生コンサルタント・社労士・元労基署署長)を迎えて、いくつかの質問にお答えいただく形で、労務管理の実際について理解を深める。

6. 15:10-17:10 <専門2単位>

シンポジウム 「コロナ禍における職場復帰のあり方」

- ① 山本 和儀 (山本クリニック/EAP 産業ストレス研究所)
- ② 山本 晴義 (横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター)
- ③ 高野 知樹 (医療法人社団 弘富会 神田東クリニック)
- ④ 西園寺 直之 (伝馬町法律事務所)

座長:渡辺 洋一郎 (横山・渡辺クリニック)

座長:芦原 睦 (芦原内科・心療内科、中部心身医療研究所)

ねらい: 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、働き方とコミュニケーション様式等が変化し、両立支援上の課題も少なくない。本シンポジウムでは、多職種の視点から現状報告と問題提起をいただき、議論したい。